

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなりました。

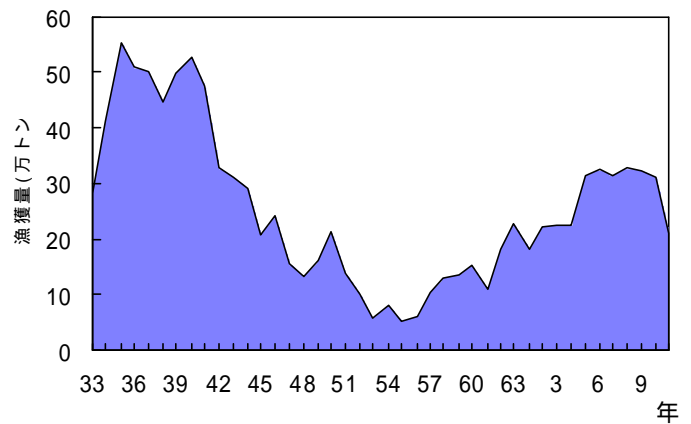


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成13年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根・川内・串木野沖（4～6月）、甕周辺（4月）に、薩南海域では、内之浦沖（4～6月）、野間池沖（5・6月）に漁場が形成されました。

4港計では、豆・小アジ（平成12年生まれ）主体に1,316トンの水揚げで、4・5月は、前年を上回りました。前年及び平年の155%及び73%でした。

平成12年生まれ群は、昨年の8～11月は低調に推移しましたが、12月以降は比較的順調に漁獲されています。

3. 平成13年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ（0歳魚・平成13年生まれ）で、来遊量は平年を下回り、前年並みでしょう。

（根 拠）

主漁獲対象となる平成13年生まれ群は、平成12年生まれ群より小さいと考えられます。小アジ（1歳魚・平成12年生まれ）の来遊量は、前年を上回ると考えられます。

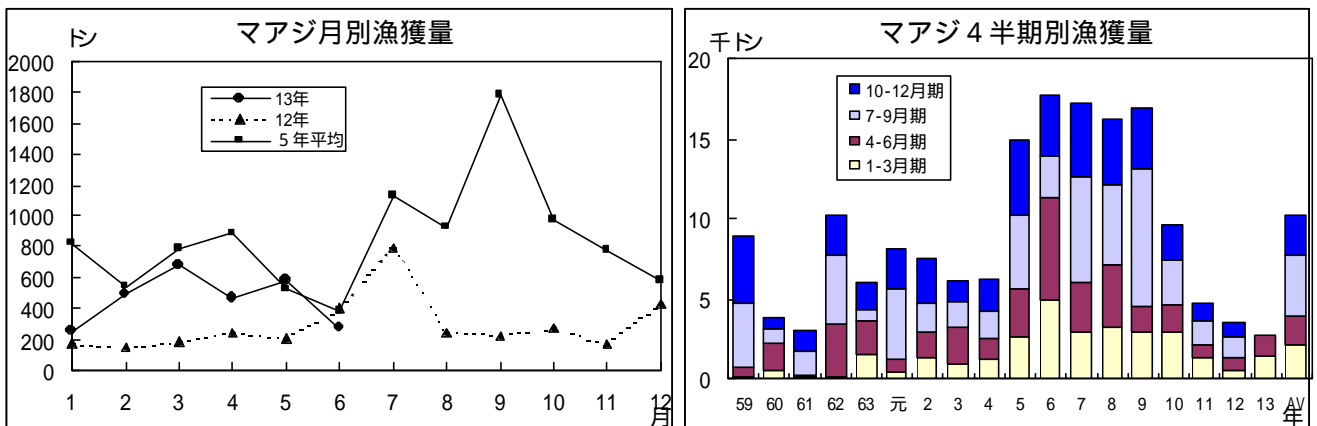


図 マアジ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年6月は20日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンを一ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成11年は38万2千トンでした。

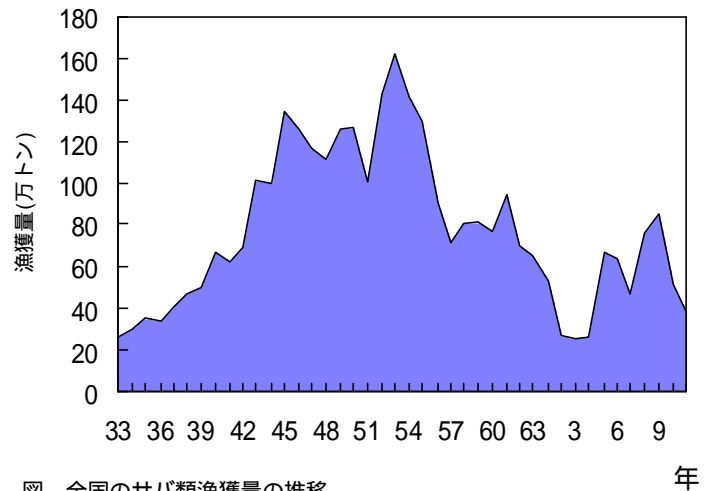


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 平成13年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕周辺(4月)に、薩南海域では、馬毛島周辺(4・5月)、種子島東沖(4月)、宇治群島周辺(4月)、屋久島周辺(5・6月)、佐多岬沖(6月)等に漁場が形成されました。

4港計では、中ゴマサバ(平成11年生まれ)主体に2,158トンの水揚げがあり、4月は前年・平年を上回りましたが、5・6月は低調な漁模様となりました。前年及び平年の91%及び58%でした。2・3月と順調な漁場形成がみられたことから、好漁が継続すると予測しましたが、結果的には、産卵親魚の漁場形成時期が早まったと考えられます。

3. 平成13年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は豆サバ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

平成13年生まれ群・平成12年生まれ群ともに、加入は低水準と考えられます。

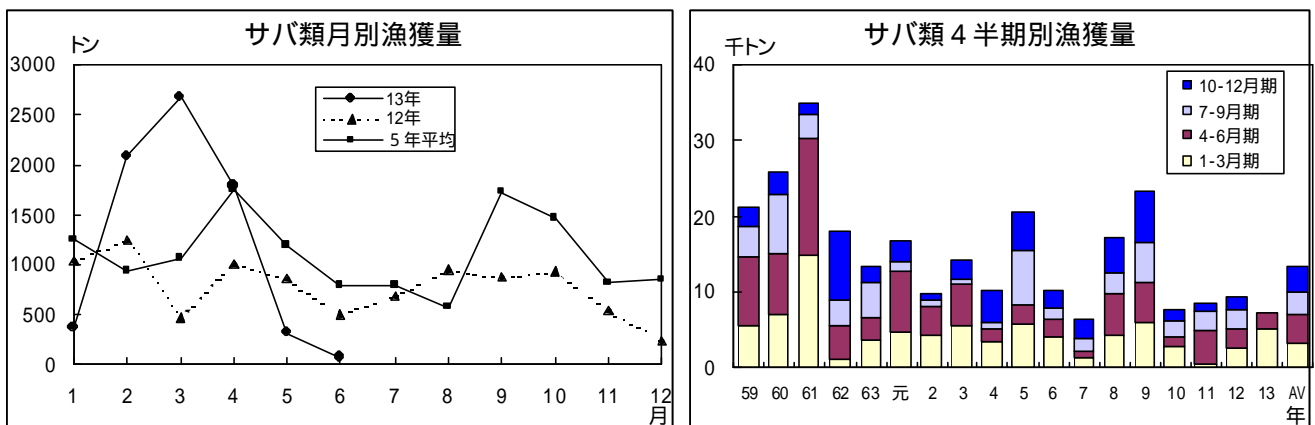


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8～12年)の平均値、平成13年6月は20日までの水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなりました。平成9年は28万4千トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年には若干資源が回復し、35万1千トンとなりました。

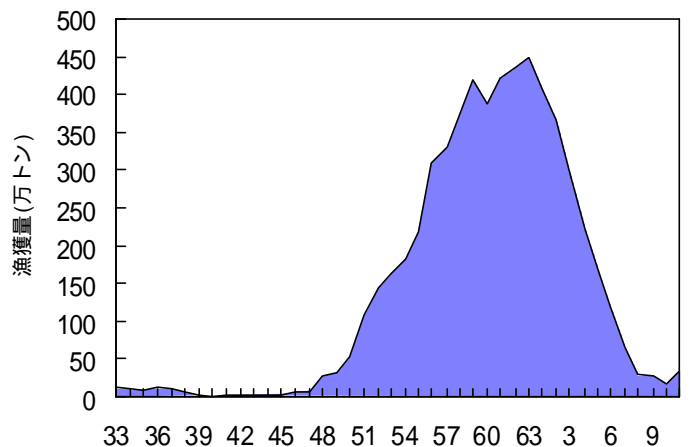


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

2. 平成13年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖(4月)で、若干の漁獲がありました。

4港計では、13.2トンで前年及び平年の173%及び8%でした。

3. 平成13年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小羽イワシ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は前年下回るでしょう。

(根拠)

マイワシの資源状態は低水準にあり、まとまった漁獲は見られないと考えられます。

阿久根港棒受網の漁獲状況から、平成13年生まれ群は、平成12年生まれ群より小さいと考えられます。

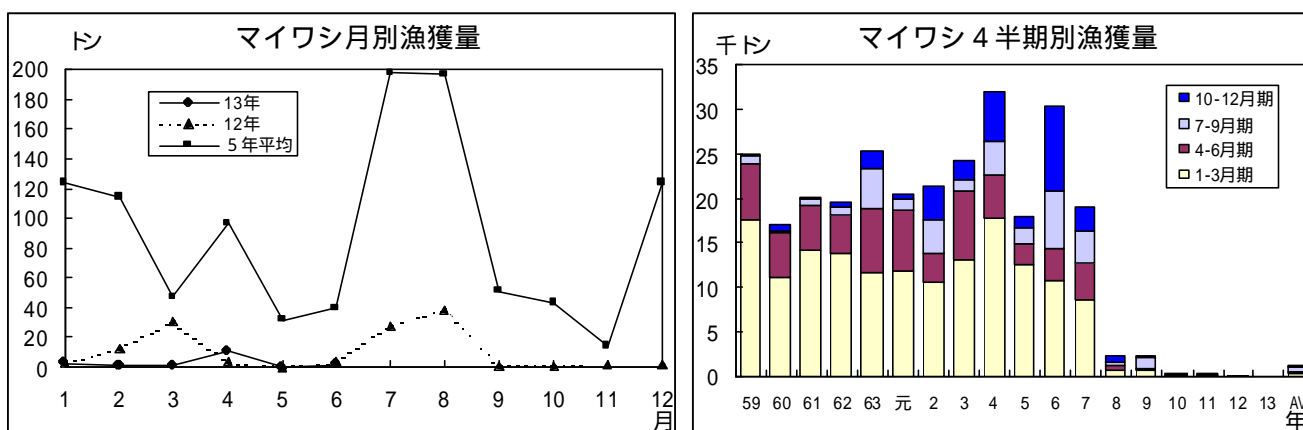


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年6月は20日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成10年は4万8千トン、平成11年は2万9千トンでした。

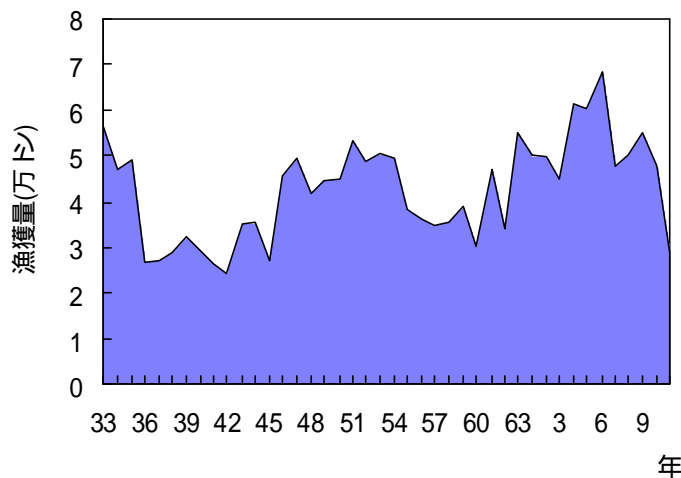


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成13年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖(6月)に、薩南海域では、開聞沖(4月)、野間池沖(4月)等で漁獲がありました。

4港計では、321トンで、4月は前年・平年を上回りました。前年及び平年の215%及び101%でした。

3. 平成13年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小～中羽ウルメ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は平年を下回り、前年並みでしょう。

(根 拠)

平成10年12月以降の漁獲状況は低調となっています。

最近の漁模様から親魚量も少なく、平成13年生まれ群の加入も少ないと考えられます。

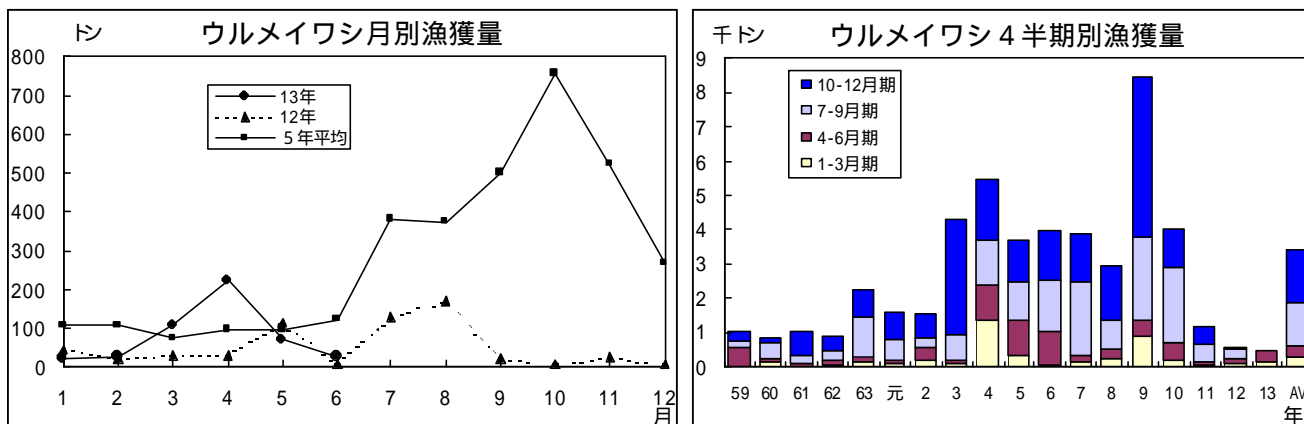


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年6月は20日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トンとなりました。

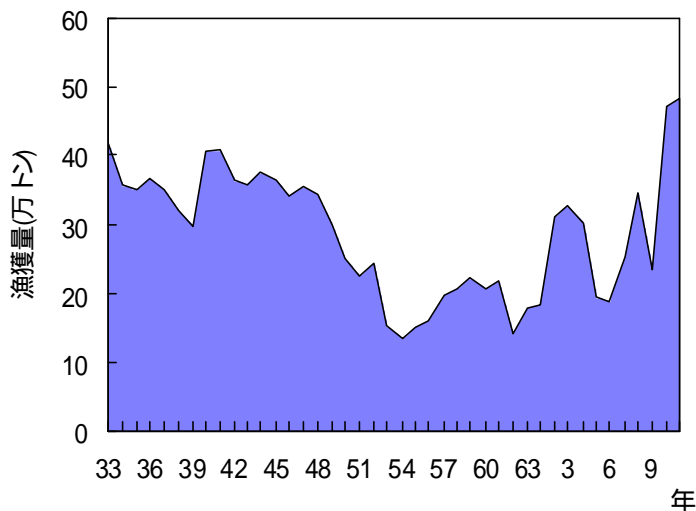


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成13年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の長島沖(4～6月)で漁獲がありました。

4港計では、187トンで前年及び平年の108%及び122%でした。5・6月に前年・平年を上回りました。

3. 平成13年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は中羽カタクチで、来遊量は前年・平年並みでしょう。

（根 拠）

近年の漁獲量は高水準で推移していますが、月により漁獲量のばらつきが大きく、減少傾向にあります。

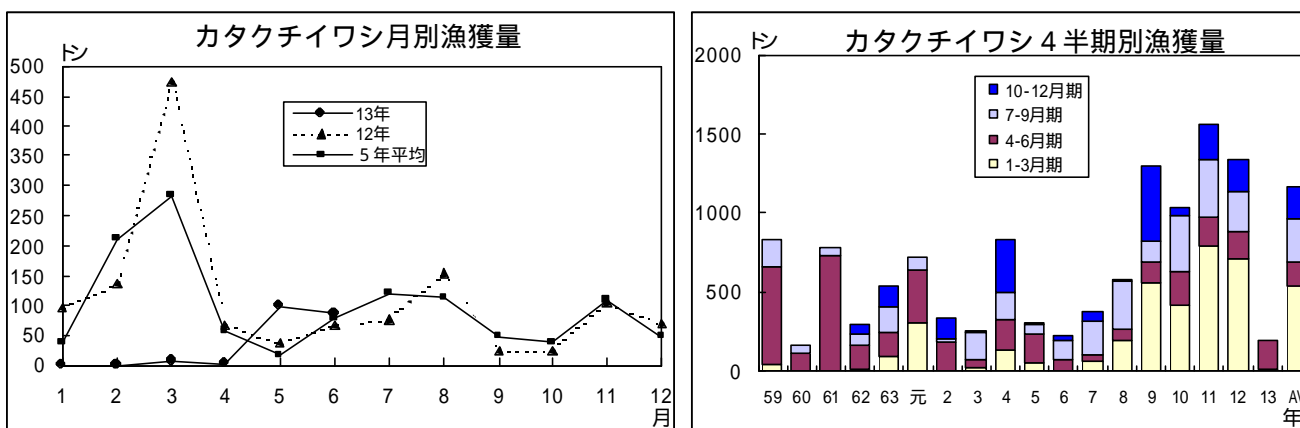


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年6月は20日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類 (4 港計)

1. 経年変化及び平成13年4～6月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンにピークに減少傾向を示し、平成8年は3,108トン、平成9年はやや増加し3,853トン、平成10年は3,819トン、平成11年は2,299トンと減少し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、4～6月期全体では178トンで前年及び平年の317%及び75%でした。

2. 平成13年7～9月期の見とおし

来遊量は前年・平年並みでしょう。

オアカムロ (4 港計)

1. 経年変化及び平成13年4～6月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンにピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トン、平成11年は減少し2,076トン、平成12年は2,483トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、4～6月期全体では252トンで前年及び平年の92%及び32%でした。

2. 平成13年7～9月期の見とおし

来遊量は前年を下回り、平年並みでしょう。

マルアジ (アオアジ) (4 港計)

1. 経年変化及び平成13年4～6月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加し、平成8年は1,083トン、平成9年は684トンと減少しましたが、平成10年は1,062トン、平成11年は再び減少し639トンでした。平成12年は、12年生まれ群の加入が順調で、1,867トンに増加しました。

主に北薩海域で漁獲があり、4～6月期全体では豆マルアジ主体に335トンで前年及び平年の347%及び254%でした。

2. 平成13年7～9月期の見とおし

来遊量は前年を下回り、平年を上回るでしょう。

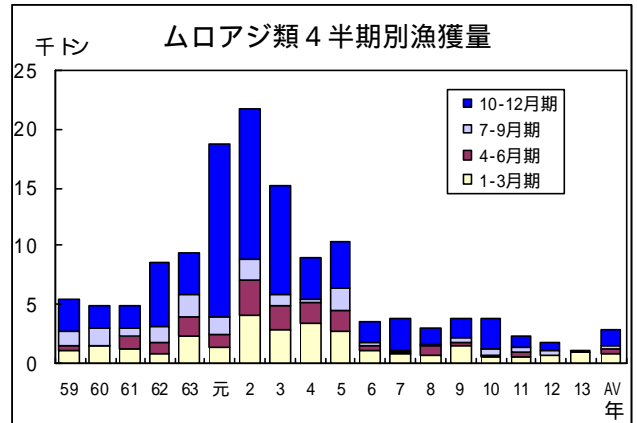
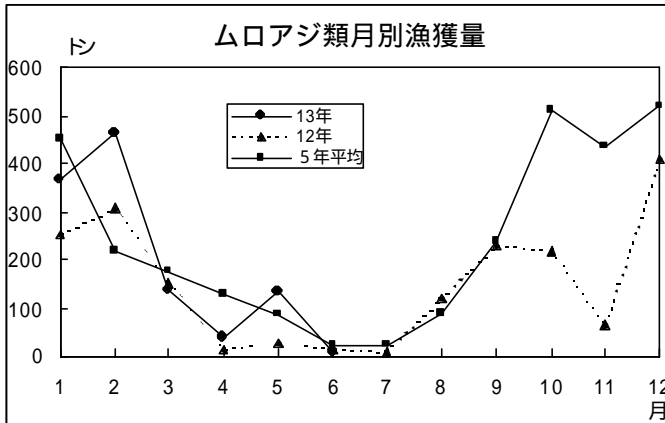


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

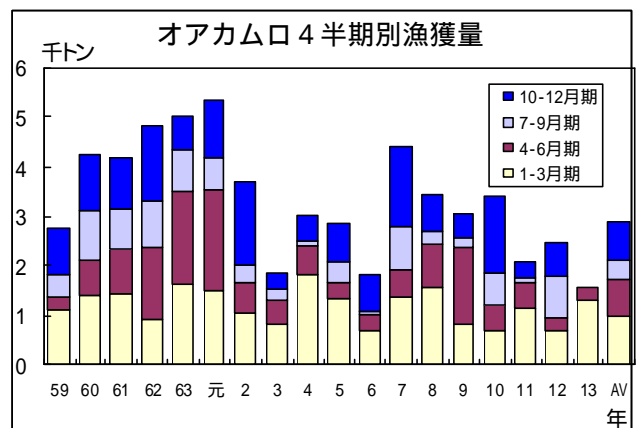
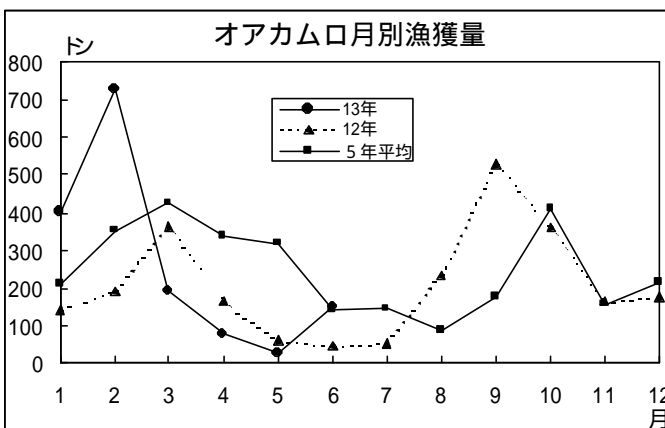


図 オアカム口漁獲量変化(4港計)

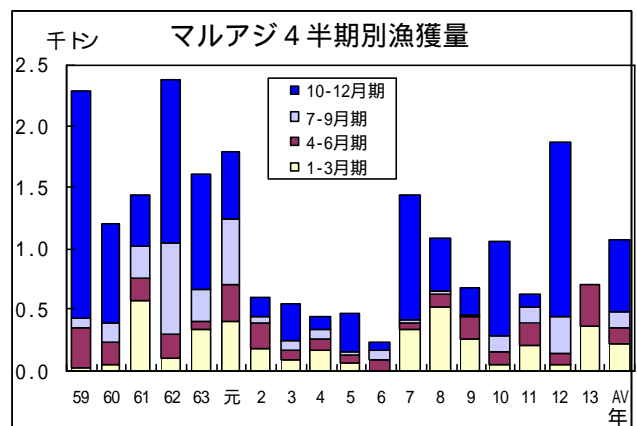
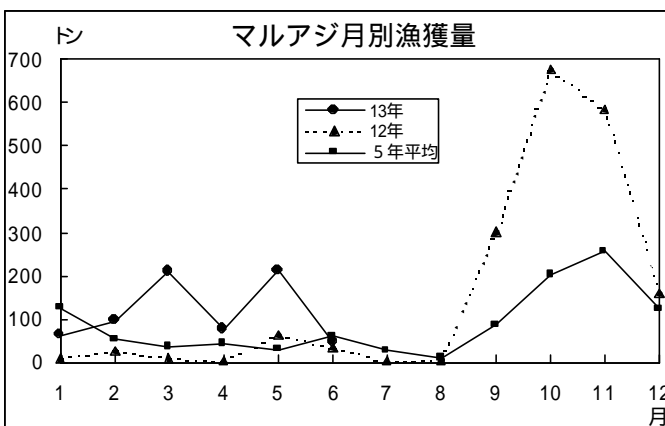


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8~12年)の平均値,平成13年6月は20日までの水揚量を使用。